

# FP まつもと通信

ちょっと得する「保険」や「年金」についての話題をお届けします。

## ご挨拶

早いもので今年もあとわずかです。平成最後の年末がまもなく終了します。

皆さんにとって2018年はどんな年だったでしょうか？

スポーツの分野では、冬季オリンピックやW杯、アジア大会など、日本人（チーム）の活躍が目立ちましたね。夏の甲子園も100回大会で大いに盛り上がりました。

特に、長野県のスポーツは盛り上がりましたね。御嶽海の優勝に、J2松本山雅のリーグ優勝と2019年のJ1昇格が決定しました。

私自身は、年に2～3回くらい観戦する程度ですが、毎試合欠かさず応援するサポーターの皆様にとっては、最高の時間だったのではないのでしょうか。大変におめでとうございます！



今月号のちょっと気になるお金のコラムは、日本人の貯金（金融資産）の現状についてです。

他の人はいくらぐらい貯めているの？  
来年こそは貯金を！

とお考えの方も多いかもかもしれません。比較的時間が取れる年末年始には是非、来年に向けてのマネープランを作ってはいかがでしょうか？



**FP** F P 松本相談センター  
CFP・IFA（金融商品仲介業）  
媚山裕之  
〒390-1702  
長野県松本市梓川梓856-26  
0263-76-1250 090-8741-7358  
[info@fp-matsumoto.com](mailto:info@fp-matsumoto.com)  
<http://fp-matsumoto.com>

## 11月30日は何の日かご存知ですか？

1130「いいみらい」から「年金の日」です。

決めたのは厚生労働省。“国民一人ひとり、「ねんきんネット」等を活用しながら、高齢期の生活設計に思いを巡らす日”としています。

年金ネットを見ることで、

ご自身の年金記録の確認  
将来の年金見込額の確認  
電子版「ねんきん定期便」の閲覧  
日本年金機構から郵送された各種通知書

などを確認することができます。

将来の年金が不安、という声をよく聞きますが、まずはご自身の年金の現状を確認するところから始めてはいかがでしょうか？



平成30年度「年金の日」  
ポスター（厚生労働省）

2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。国も勧める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすい」と多くの受講者から支持を得ている。

# 確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

積立投資の推移



N社バランスファンドのデータによる（コスト控除後）

	積立合計額	株式75%	株式50%	株式25%
2018年9月末	190,000	200,465	196,150	191,546
2018年10月末	200,000	193,566	194,596	195,517
2018年11月末	210,000	207,405	206,999	206,436

2017年3月から開始した積立投資は左の図表のようになりました。

確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切です。

## 投資期間に応じた資産配分

積立期間が長い場合には株式の比率を多く、受取時期が近くなったら値動きが小さい債券の比率を多めにする。

## 大幅に値下がりした場合

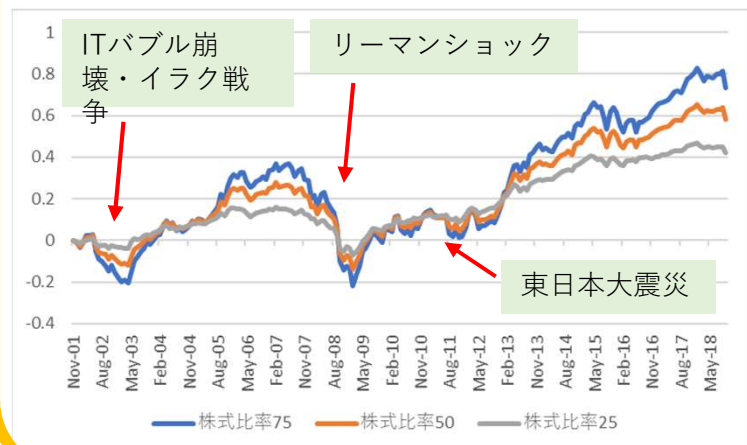
積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する。

## 株式・債券の特徴を理解して長期継続する。

株式や債券の特徴をよく理解して、様々なニュースや情報に惑わされず投資を長期継続することが成果に結びつきます。

今月は上記のシミュレーションで使っている株式比率が異なる3つのファンドの時系列の推移を見てみましょう。

下のグラフは2001年11月（これらのファンドが運用開始した時）から2018年10月末までの累積月次リターン推移です。



17年間の価格の推移を見てどのようなことに気づきますか？

おそらく2つのことに気づくのではないのでしょうか？

1. グラフはアップダウンを繰り返しながら時間の経過とともに上昇している
2. グラフの動き方の傾向は3つとも同様だが、株式比率の違いによって値動きの大きさが異なる

## 世界の株式会社は多くの困難を乗り越えてきた

ニュースでは、値下がりするとその原因を解説しますが、このグラフにある17年間でも大きな出来事が沢山ありました。

2000年から2003年にかけては、ITバブルの崩壊、アメリカ同時多発テロ、イラク戦争が株式市場の重石になりました。

# 確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

2001年9月11日、旅客機がニューヨークの高層ビルに突っ込む映像をニュースで見た時はこの世の出来事とは思えませんでした。

そこからイラク戦争に向かっていくのですが、イスラム教社会とキリスト教社会の世界を2分する戦争になるのではないかと思える大変重苦しいムードだったことを思い出します。

その後も2008年のリーマンショック、2011年には東日本大震災など経済に大きな影響を与える出来事が起こりました。

その都度、【世界経済＝世界中の一つ一つの株式会社の合計】は時間をかけながらそれらを乗り越えてきました。

今後も様々な事件や出来事があると思いますが、同様に一つ一つの企業はそれを乗り越える努力と工夫を続けていくのではないのでしょうか？

グラフはこのことを表しています。

## 投資（積立）期間に応じた株式比率を！

それぞれのファンドが投資をしている株式や債券は全く同じものです。違うのは比率だけです。

それによって値動きの傾向がこのように異なってきます。

株式は債券と比べてのちに得られるリターンが大きくなるのが期待できる反面、値動きが大きくなります。

不況や危機のときには大きく値下がりをし、回復まで相応の時間もかかります。

従って、投資（積立）期間が短いにも関わらず、良いニュースを聞いたから、といった理由で株式比率が多いファンドを購入すると、その予想が外れたときには大きなダメージを受けます。

場合によっては、予定している老後資金が大きく毀損することもあるかもしれません。

反対に投資（積立）期間が十分に長く取れるのにも関わらず株式比率が低いファンドや元本確保型の商品にしていると、十分な老後資金が確保できないことにも

なりかねません。

投資（積立）期間に応じて適切な株式比率で積立を継続してください。

このような株式市場の特徴を頭に入れた上で、年末年始には、来年以降の積立プランを検討してはいかがでしょうか？

## ちょっと気になるお金のコラム

今月は日本人の貯蓄の現状を見てみましょう。年末年始に来年のマネープランを考えるきっかけにしたいだけだと思います。

### 日本人の貯金の平均は1812万円

まずは年齢ごとの貯蓄額を見てみましょう。

平均	～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳～
1,812	164	1,057	1,817	1,689	2,347	2,927

2017年家計調査（総務省）より

一般に家庭を持ち始める30代から貯金を始めているようです。70歳代で3000万円近くの貯金があれば「老後が心配」ということはないでしょう。50代が40代より少ないのは、教育費等の取崩しがあったのかもしれませんが。

下表は2002年から2017年までの年代別推移です。この15年で働き盛りの人の貯金が減少する一方、すでに老後を迎えている人の貯金は増加傾向にあります。特に目立つのは20歳代と70歳以上です。20歳代の人貯蓄額は半分以下になった一方、70歳代以上の人は2倍になっています。

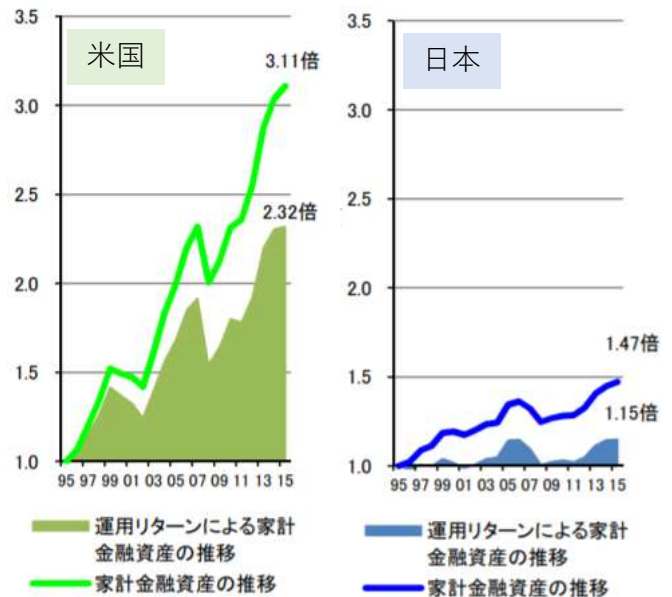
	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～
2002	357	1,553	1,909	2,456	2,242	1,484
2005	261	1,542	1,863	2,341	2,311	1,683
2008	212	1,522	1,902	2,089	2,336	1,938
2011	212	1,400	1,818	1,872	2,417	2,282
2014	191	1,167	1,889	1,738	2,380	2,636
2017	164	1,057	1,817	1,689	2,347	2,927

### 今後のカギは資産運用？！

高齢者が資産を殖やす一方、働き盛りの人の貯金が殖えていない現実がわかりました。では海外と比べるとどうでしょうか？

右上図は1995年から2015年までの日米の金融資産の推移を表しています。

(金融庁 家計金融資産の現状分析より 平成29年2月3日 <https://www.fsa.go.jp/singi/kakei/siryuu/20170203/03.pdf> )



これによると、20年間で米国の家計資産は3.11倍に、うち運用リターンで2.32倍になっています。一方日本では1.47倍、運用リターンでは1.15倍にしかありません。20年間で日米の家計資産の殖え方に大きな差がついてしまいました。原因としては、日米のインフレ率の差、そして資産運用に回している金額の差が指摘されています。

	株式・投資信託（間接保有含む）	保険・年金	現預金	その他
日本	18.8%	25.4%	51.9%	3.9%
米国	45.4%	15.0%	13.7%	25.9%

上表は同じく金融庁資料からの抜粋した日米の家計金融資産の構成比です。

米国では資産の45%を資産運用に回していますが、その割合は日本では20%以下です。日本人も長期的な視野に立ってもう少し資産運用に取り組んでも良いかもしれません。

この年末年始には、資産運用の商品としてどのようなものがあるか調べて、来年へ向けてのマネープランに生かしてみたいかどうでしょうか？

どんな商品でどのように始めればよいのかご関心がある方はお問合せください。

# お金のこと、年金のこと、保険のこと、 すっきりしたい方、安心したい方は無料FP相談をご利用ください

- ✓ 保険料を払いすぎているか確認したい
- ✓ 自分が加入している保険がどのような時にでるのか確認したい
- ✓ 年金がいくらぐらいもらえるのか知りたい
- ✓ 年金が不安だがどのように準備したらよいか知りたい
- ✓ 火災保険や自動車保険のお得な入り方を知りたい
- ✓ 確定拠出年金の商品選びについて教えて欲しい
- ✓ その他



このようなことで少しでも気になることがある場合はご相談ください。ニュースレター会員の方向けに無料でFP相談を行っています。

## ご相談事例

- 昔に入った生命保険を見直して毎月の保険料が大幅にダウン。
- 年金定期便の見方がわかり、具体的に老後資金準備のイメージがつかめた。
- 最近の医療制度や医療技術に合わせた保険に変更でき安心した。

## FP無料相談 お申込

ご確認したい項目に、必要事項をご記入の上、ファックスでお申込ください。折り返しご連絡を差し上げます。

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 生命保険のお得な入り方     | <input type="checkbox"/> 年金定期便の見方        |
| <input type="checkbox"/> 加入生命保険の内容を確認したい | <input type="checkbox"/> 老後資金の準備について     |
| <input type="checkbox"/> がん保険・先進医療保険について | <input type="checkbox"/> 教育資金の準備について     |
| <input type="checkbox"/> 損害保険のお得な入り方     | <input type="checkbox"/> 年金商品の選び方        |
| <input type="checkbox"/> その他             | <input type="checkbox"/> 確定拠出年金の商品選びについて |

お名前

電話番号

メール

 (ブロック体でご記入ください)

勤務先

お役職

お問い合わせフォームはこちら⇒  
<http://fp-matsumoto.com/contact/>



↓ FAX:050-3730-0380 ↓

個人情報の利用目的：当該サービスを提供。当社サービスのご案内